

# 取組事例

## 【市町村立図書館の取組】

湯浅町立図書館・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

## 【小・中学校の取組】

海南市立日方小学校・・・・・・・・・・・・・・・・2

日高川町立中津中学校・・・・・・・・・・・・・・3

## 【高等学校・特別支援学校の取組】

県立箕島高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・4

県立きのかわ支援学校・・・・・・・・・・・・・・5

## 【特色ある取組】

「こども司書」

有田川町立金屋図書館・・・・・・・・・・・・・・6

## 市町村立図書館の取組

図書館名	湯浅町立図書館		
蔵書数	53,393冊	児童書冊数の割合	33.7%
開館時間	9:00～21:00（月末金曜日・年末年始閉館）		

**point!** 町立図書館が湯浅駅前にリニューアルオープン！ 立地のよさを活かして来館者を増やす様々な取組を実施

令和2年10月に町立図書館を駅前の複合施設へ移転し、リニューアルオープンした。複合施設にはJR湯浅駅が入っており、通勤・通学で駅を利用される方のニーズに対応するため、午前9時から午後9時まで開館している。それにより、来館者数は旧図書館から5倍近く増加したが、貸出冊数が伸び悩んでいた。そこで、読書記録帳機を設置し、読書記録帳の発行を希望される方に無料配布する取組を始めた。また、月に一度の「おはなし会」や年に一度の図書館講演会等の開催で、町民が図書館を身近に感じることができる機会を増やし、気軽に来館できる親しみやすい図書館づくりに努めている。

### ○図書館の目標

町民の生涯学習の拠点として必要な資料を収集したり情報発信を行ったりするとともに、町民が気軽に学べる拠点として、地域から親しまれる図書館づくりをめざす。

### ○こどもの読書活動に関する取組

#### 【定期的に行われている取組】

- ・読み聞かせサークルによる「おはなし会」  
（毎月第2土曜に親子を対象とした絵本の読み聞かせの会を実施）

- ・えき蔵おやこ集いの場

（毎月第2土曜の「おはなし会」終了後、親子を対象に折り紙遊びやお絵かき、すごろく、カルタ等の遊びを通して親子の親睦を深めることを目的として実施）

- ・ブックトーク
- ・季節に合わせた館内展示（随時更新）

#### 【イベント的に行われている取組】

- ・図書館講演会  
（読書週間に合わせて、児童文学作家等を招いた講演会の開催）
- ・有田郡3町合同開催で中高生対象のビブリオバトルを開催

#### 【情報発信】

- ・X(旧Twitter)で随時新しい情報を発信している。

#### 【こどもの読書意欲を高めるために】

令和3年度に館内に読書記録帳機を設置し、希望者に読書記録帳を無料配布する取組を始めた。令和4年度には、こどもがより図書館に足を運び、読書に親しんでもらうことを目的として町内全小中学生に読書記録帳を配布している。読書記録帳1冊終了するごとにささやかな記念品を贈呈している。



えき蔵おやこ集いの場の様子

### ○成果

・読書記録帳機の導入、全小中学生への読書記録帳の配布により、読んだ書籍と冊数が一目で分かるようになり、読書量が伸びた子供も一定数いる。

・こどもたちにより図書館に足を運んでもらうため、図書館職員がアイデアを出し、それを具体化したイベントも始めたところである。通常の貸出業務、蔵書点検業務だけではなく、来館者のニーズを探りながら、イベントを考えることで「来館者にあったかい図書館」となりつつある。

### ○課題・今後の対応

・SNSを活用した情報発信を始めたところであるが、町民により新しい図書館からの情報を発信することで来館者数の増加をめざす。

・職員が持っている専門性を活かして「読み聞かせ」や「ブックトーク」等の活動を広げるなど、こどもたちがより読書に興味を持つ取組を実施していく。

（参考）湯浅町立図書館ホームページ <https://www.town.yuasa.wakayama.jp/site/kyoiku/1352.html>

# 学びの力を培い、豊かな心を育む図書館教育

学校名	海南市立日方小学校				
学級数	10学級	児童数	156人	蔵書数	7,021冊

- 取組における4つの視点**
- ①読書への「興味」を深める
  - ②読書の「幅」を広げる
  - ③読書の「質」を高める
  - ④「情報活用能力」を高める

**子どもの読書活動における 具体的な数値目標の設定**

- ◎子ども自身の目標・自覚
- ◎読書の足跡を残す

**目標 10,000ページ**

- ☆1・2年生 毎日1さつ 30ページ×365日
- ☆3・4年生 週2さつ 100ページ×100さつ
- ☆5・6年生 週1さつ 200ページ×50さつ

校長講話にて目標を共有  
令和3年度 日方小学校  
目標 151人の子どもたち全員  
本が好きで読書する  
いっぺい  
10,000ページ

「背伸びとジャンプ」の視点  
努力すれば届きそうな目標設定  
10,000を達成すれば素晴らしいが、  
10,000を目指して読書することで、  
ページ貯金は貯まってくる。

**Point1 こどもの読書活動における変容をみとり、次の実践に生かす**

【①読書への「興味」を深める、②読書の「幅」を広げる】

[具体的な数値目標の設定] 1、2年生…150冊  
3～6年生…10,000ページ

[読書の足跡を残す]  
オリジナル読書記録…こどもが自分の読書の足跡をタブレットに入力し、残していく。  
(読書貯金)

海南市立日方小学校  
第3回 6年生  
POP作品展・コンクール  
開催中

令和4年(2022年)  
11月1日(火) 9:30～  
11月11日(金) 17:00

日方小学校6年生 15人は、自分のお気に入りの本の魅力を凝縮したPOPを完成させようど、一生懸命にかんぱりました。ぜひ私たちのPOP作品展を、ゆっくりにご覧ください。また、ぜひコンクールも実施していきます。ぜひ、気に入ったPOPへの投票にご協力ください。よろしくお願ひいたします。

**Point2 「連携」幅広く 質の高い実践を生むために 【③読書の「質」を高める】**

- [学年間の連携] 他学年へ「お気に入りの本」を紹介
- [公立図書館との連携] 下津図書館からの団体貸出利用…年間約1,500冊  
nobinosの定期利用  
nobinosギャラリーでのイベント  
…ポップ展示(6年:コンクールも開催)
- [学校司書との連携] 学校司書による読み聞かせ 読書ビンゴ
- [図書ボランティアとの連携] 毎週木曜日の図書整備 テーマ展示



nobinos定期利用



**Point3 国語科における授業との関連付け 【④「情報活用能力」を高める】**

- 1年生 「じどう車ずかんをつくろう」 (主教材:「じどうしゃくらべ」)
- 2年生 「本は友だち お気に入りの本をしょうかいしよう」  
(主教材:「ミリーのすてきなぼうし」)
- 3年生 「4コマまんがの世界へレッツゴー」 (主教材:「三年とうげ」)
- 4年生 「私のおすすめの伝統工芸～リーフレットで紹介しよう～」  
(主教材:「世界にほころ和紙」伝統工芸のよさを伝えよう)  
「ごんぎつね～おすすめしよう、新美南吉作品」  
(主教材:「ごんぎつね」)
- 5年生 「わたしの生き方をさがそう～伝記にあふれるパワーフレーズ～」  
(主教材:「やなせたかし～アンパンマンの勇気」)
- 6年生 「賢治の世界～作品に込めた思いを考えよう～」  
(主教材:「やまなし」「イーハトーブの夢」)  
「私と本 森へ」 (ブックトーク)
- 特別支援学級 「ほん を たのしもう ～読み聞かせを通して～」  
(情緒学級:主教材「やさいのおなか」きうち かつ 絵本シリーズ)  
「世界で一つだけの絵本を作ろう」  
(知的学級:主教材:「がたごと がたごと」)



※他教科でも学校図書館を活用し、課題を解決する方法や発表を行っている。

**●成果**

- ・海南市で行っている読書アンケート(4月、10月、2月の年3回実施)の結果、「読書は好きですか」の設問に対して肯定的な回答が98%となり、「好きではない」と回答した児童はいなかった。また、読書時間や読書冊数の増加が見られた。特に、読書冊数については、4月に比べると倍以上になった。年間読書ページについても、4割近くの児童が10,000ページを達成した。
- ・教科との関連付けを行ったり、公共図書館や学校司書、図書ボランティアと連携したりすることにより、図書室や公立図書館に足を運ぶ児童が増え、本を手にとることが日常の一つとなってきている。

**●課題・今後の方向性**

- ・今後も、令和4年度までの取組を踏襲しながら、「読書」で培った力を教科学習や日常生活の中で生かせるよう取り組んでいく。
- ・公立図書館や図書ボランティアとの連携も継続し、よりよい読書環境づくりを目指していく。



# 「教員もつかえる学校図書館を目指して！」～学校図書館図書選定委員会～

学校名	日高川町立中津中学校				
学級数	4学級	生徒数	38人	蔵書数	6,080冊

## 1 取組のきっかけ

本町の学校図書館の抱える課題

1. 蔵書配分比率の偏り(文学作品が多い)
2. 「学習・情報センター」として活用するための資料の質が低い
3. 学校図書館内で学習するには広さ等が十分でない

3つの課題のうち、課題1・2について、「学校図書館選定委員会(以下、選定委員会)」を運用することで、改善が望めると考えた。そこで、令和4年度、中津中学校、中津小学校にて、選定委員会の運用モデルの研究を行い、令和5年度から本町全体で取り組んでいる。

## 2 取組の内容

### 学校図書館図書選定委員会の運用について

#### (1) 選定委員会の年間活動計画の作成

前年度の取組について検証を行い、学校図書館の改善に向け目標と取組(選書の目的、アンケート等)について計画的に取り組めるよう作成する。また、年末をめどに、取組の検証を行い、次年度の目標や取組等について検討を行う。



#### (2) 学校図書館活用計画の作成

学級担任や教科担当が、授業等で学校図書館の活用について計画を立てる。また、学校図書館活用計画を立てることで、選書の際に、「どの単元の、どんな内容で、どのように活用するか」といった具体的な視点が生まれ、より授業で活用できる書籍を精選できる。さらに、学校司書と情報共有することで、学校図書館の活用を促したり、スムーズにサポートしたりする事ができる。

#### (3) 学校図書館に係る調査の実施

生徒等を対象とし、読書、図書館活用に関する調査を行い、学校図書館の活用について実態を把握する。その後、学校図書館の改善、選書の視点等を検証する根拠資料とし、次年度の改善に繋げていく。

選書会では学校図書館活用計画をもとに、授業で使用する目的・内容や児童生徒の実態に合っているか等について、実際に手に取り、確認して選書を行う。この作業により、目録ではわからない書籍の内容・構図・図表などを確認でき、より授業での活用に適した書籍(資料)を選ぶことができる。

#### (4) 学校司書と地元の書店と連携した取組

選書会で選書する書籍については、事前に教員のニーズを調査する。その調査結果より、学校司書が書籍を集めたり、地元の書店へ依頼したりし、書籍を揃える。選書会には、学校司書・書店も立ち合い、教員の視点に加え、学校外の視点を入れる事で多様性を持った選書ができる。

なお、この選書会では、全職員が参加するため、図書館担当のみに任せるのではなく、全職員が学校図書館の事を知り、より「教員もつかえる学校図書館」の実現を目指すことができる。



## 3 成果

- ・教科担当が学校図書館活用計画の作成をすることで、学校図書館の活用の促進に繋がった。
  - ・学校図書担当だけでなく全職員が選書に関わることで、全職員が学校図書館の事を知ることができた。
  - ・学校図書館図書の蔵書配分比率がメディア基準(全国学校図書館協議会)に近づいた。
  - ・「学習・情報センター」としての役割における読書推進に繋がった。
  - ・この取組をとおして、学校司書と教員の連携が深まった。
  - ・授業で学校図書館を活用することが増えるとともに、生徒が足を運ぶことが多くなった。
- また、選書会を行うことで、日頃触れないジャンルの本に触れる機会が増え、こどもたちの読書をする量も増加した。



## 4 課題・今後の方向性

### 【課題】

- ・蔵書配分比率の変化等、取組の効果は小さいため継続していく。(教育計画に組み込み済み)
- ・毎年、町内の全学校で取り組むため、形骸化させない。(町教委主催で研修会等の働きかけを行う)

### 【今後の方向性】

学校図書館活用の活性化については、学校図書館を実際に使う全職員が関わる事が重要であると考えており、各校の選書会等や町主催の研修等で、学校図書館に関わる機会をつくり、学校と教委が連携していく必要がある。

# みんなの居場所にするために・・・図書館をアップデート

学校名	和歌山県立箕島高等学校				
学級数	14学級	生徒数	376名	蔵書数	25,446冊

## ～はじめに～

図書館を「みんなの居場所」にするためには「読書が、本が苦手」「図書館行ったことない」という生徒への働きかけが重要になってくる。彼らに足を運んでもらうためにはどうすればいいのか？様々な試行錯誤を行ったところ、結果的に図書館の機能を強化し可能性を広げることにつながっていった。図書館を「みんなの居場所」にするために行った2年半の取組を5つのテーマでまとめてみたい。

### ・「探しやすい」図書館

何十年も前の古い本がびっしり並んだ書架や色あせたサインは本が苦手な生徒にとつただの壁でしかない。思い切って除架、除籍し、面展示できるスペースや展示コーナーを作り、案内表示やサインを一新することで館内が明るくなりブラウジングする生徒が増えた。



### ・「DXする」図書館

図書館の公式LINE、公式Instagramを開設しSNSで情報発信を行っている。行事や紹介したい本などタイムリーな情報発信ができることに加え、web上で公開している蔵書検索や開館カレンダーにもリンクでき、利便性も向上した。LINEのポイント機能を活用し、10Pためると景品と交換できるデジタル貸出ポイントカードも好評である。



### ・「作る」図書館

探究の「情報の探し方ガイド」やSDGsに関するブックリストを作成しteamsにアップロード、また、遠足など行き先が決まっている行事は先輩から後輩へのアドバイスを募り、リーフレットにまとめ配布している。他にも進路に関する各種ワークシートなど、自校のニーズに応じたブックリストや資料の作成を行うことで図書館の活用の幅が広がった。



### ・「楽しむ」図書館

クリスマスには、コンサートやクイズ、デジタルスタンプラリーなどの楽しい企画「図書館クリスマスフェスタ」を実施、他に年に一度の選本会や図書委員によるおすすめ本広報紙「Minoteen」の発行を行っている。マジックや文房具などをまとめた「メイカースペース」も設置し活用されている。



### ・「伝える」図書館

図書館の広報担当は、図書館公認キャラクターの「みのしまたん」。「みのたん」と「しまたん」という大小みのむし風のぬいぐるみが図書館からのお知らせを伝えると、それだけで親しみが増す。また、身近な先生や生徒をポスターに起用するのも目を引き、文字やイラストだけでは伝わらないインパクトを与えるように思う。



## ●成果

これらの取組を実践してきた結果、「うちの図書館は充実している」と誇らしげに言う生徒や「居心地が良くて出たくない～」と叫ぶ生徒もいてありがたいと感じている。読書は強要されたり、競うものではなく、図書館が整備され魅力的な空間になることで自然と本に手が伸び読書意欲が高まっていくのではないだろうか。今後もコツコツとアップデートを重ね、読書意欲が高まる魅力的な図書館を目指していきたい。

## ●課題・今後の方向性

急速なデジタル技術の発達や生成AIの台頭で、情報の見極め方など情報リテラシー教育の必要性が今までになく高まってきている。図書館でも様々な教科と関わりながら情報の集め方や調べ方などのサポートができるよう、司書自身もアップデートしていきたい。

# 図書委員会活動を中心にした取組

学校名		和歌山県立きのかわ支援学校			
学級数	(小) 14学級	児童生徒数	(小) 75人	蔵書数	約7,000冊
	(中) 8学級		(中) 51人		
	(高) 9学級		(高) 49人		

## 【本校の概要】

- ・肢体不自由と知的障害のある児童生徒を対象とする特別支援学校で、小学部・中学部・高等部がある。
- ・学校教育目標に「一人ひとりの自立と社会参加を目指して主体的に生きる力の育成をはかる～つながろう・学び合おう～」を掲げている。
- ・読書活動については、生徒指導部と高等部図書委員会が中心となり推進している。

## 【推進のための取組】

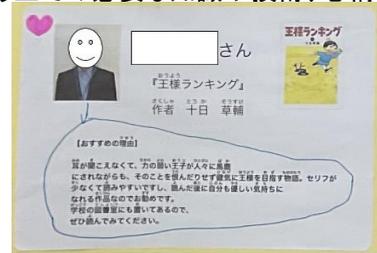
### ○高等部図書委員会

- ・月2回(隔週火曜日5、6限)7名の委員が所属し「みんなが楽しめるあかるい図書室にする」を目標に、一人ひとりの意見や発想を尊重した自主的な運営を目指している。

### ①『読み聞かせ活動』について

- ・小学部児童に絵本を楽しんでもらうために企画し、図書委員が昼休みに絵本の読み聞かせを行う。
- ・読み聞かせ団体「テープはしもと」より講師を複数回招き、読み聞かせを行う上での必要な知識や技術、心構えについて学んだ。

- ・読み聞かせをする絵本については、小学部児童がわかりやすい内容の絵本という観点で話し合いをして選定した。
- ・2グループで練習を行い、お互いの読み聞かせの良い点や改善点を出し合っ、工夫を努めた。



オススメ本の紹介

### ②『オススメ本の紹介』について

- ・委員一人ひとりが図書室の1冊について読後の感想を添え、本の魅力を発信した。
- ・教職員等にインタビューを行い、オススメの本の内容や好きなどころ等、壁新聞にまとめて発信した。

### ③『貸し出しランキング』について

- ・貸し出しが多い本や図書室をよく利用しているクラスなど、様々な項目をランキングにして壁新聞で発表した。
- ・紙を捲るとランキングが書かれているなど、見る児童生徒がワクワクするような掲示方法の工夫を行った。

### ④『図書室運営』について

- ・委員会の中で当番を決めて、週3回昼休みに図書室の本棚の整理や返却本の片付けを行っており、自分の当番を確認するなど主体的に取り組めた。

### ○中学部

- ・国語科の授業では、生徒が図書室の本を1冊読み、感想文を書いて発表する取組を行い、日頃、本に接することの少ない生徒も関心をもつ機会となった。

### ○小学部

- ・「高校生よみかたりボランティア」として、初芝橋本高等学校の生徒によるクリスマスをテーマにした絵本の読み聞かせを行なった。児童の楽しむ姿が見られ、地域の高校生と交流する中で絵本に親しむことができた。



よみかたりボランティア

### ○全校の取組

- ・毎週金曜日の昼休憩は、肢体不自由部門の児童生徒が特に利用しやすいように環境整理を行い、個々のペースで本に親しむ時間を設定している。

## 【成果】

- ・図書室の利用頻度が高まり、本や読書に関する話題や、様々なジャンルの本を手にする児童生徒が増えた。
- ・委員会活動で生徒同士が話し合い図書室の整理整頓や本の魅力の発信を行うことで、図書室への愛着が高まり使用マナーが向上した。
- ・本を通して児童生徒が他学部の児童生徒や校内の職員等と関わる中で、相手の意見を尊重したり、相手に伝わる伝え方等を意識したりできるようになった。
- ・外部講師から専門的な知識や心構え等を学ぶことで、読み聞かせやあいさつ等の礼儀作法等のスキルを身につけることができた。

## 【課題・今後の方向性】

- ・高等部図書委員会を中心に小学部・中学部と連携し、児童生徒主体で組織化した取組を進める。
- ・地域の高校生との交流や外部講師の招聘を継続し、読み聞かせの楽しさを味わうとともに、交流を通じて知識や技術等を高める。
- ・多様な実態の児童生徒に応じた本の選定を行うとともに、読書スペースを整備する。

## 特色のある取組～こども司書～

図書館名	有田川町立金屋図書館		
蔵書数	48,438冊	児童書冊数の割合	86.8%
開館時間	10:00～17:00（月曜日・祝日・年末年始休館）		

### ●取組の背景

有田川町では4か月児の乳幼児健診で絵本をプレゼントするブックスタート事業をはじめとして、未就園児を対象にした「お膝で抱っこのおはなし会(わらべうた教室)」、親子で絵本と工作を楽しむ教室「ブックラザ」、就園児から小学校低学年を対象にした「絵本の読み聞かせ会」、小学生を対象にした「本であそぼ」など、年齢に合わせた事業を展開し、図書館をより身近に感じ、本と親しめるように取り組んできました。

しかし、年齢が進むにつれて図書館から足が遠のき読書離れが進んでしまっており、特に絵本から一人読みへの移行時期の読書支援を課題としていました。そこで、図書館のことや本のことをこども自身が学び、専門的な知識を得て、学校や家庭、地域で読書の楽しさやおもしろさを伝える読書リーダー「こども司書」の育成を開始しました。

### ●取組の概要

【こども司書養成講座】(全6回)

対象:町内小学4・5年生 定員:10名程度

講座内容

- ①本の分類・本の探し方
- ②本の修理方法
- ③本の紹介・POP制作
- ④絵本の読み聞かせ
- ⑤図書館の仕事を体験
- ⑥県立図書館見学

※全6回の講座のうち、4回以上出席者に「こども司書認定証」を授与する。また、養成講座修了後は希望により、小学校卒業まで図書館でこども司書活動を行うことができます。



### 【こども司書活動】

図書館でのカウンター業務(本の貸出、返却)やイベントの補助を行います。また、こどもの目線で本の特集の設置や本で調べるクイズの作成を行い、楽しみながら図書館利用者の読書推進の一役を担っています。毎月1回行われる定例会では、学校で流行っている本や学校図書館のイベントなどの情報交換を行います。毎年3月にはお楽しみ会として、家族や友達、学校の先生に招待状を出し、ブックトークやアニメーションなどの成果を発表します。



### ●成果

2020年(令和2年)度より「こども司書養成講座」を開始し、1期生3名、2期生10名、3期生8名を認定しました。養成講座修了時にその後の図書館でのこども司書活動の希望を聞きますが、100%の確率で活動を希望し、やりがいを見出しています。また、学校でも図書委員に自信をもって立候補する児童も多く、読書リーダーとして活躍しています。

※2022年に第55回優良読書グループとして表彰される。

### ●課題・方向性

こども司書の活動は小学6年生までとしていますが、得た知識を中学校でも活かすことができないか検討中です。また、現状のこども司書の活動拠点は町立図書館ですが、学校図書館に移行できれば、より多くのこども司書を育成でき、その分だけこどもの読書推進を進めることができると考えています。そのためには図書館と学校との連携が必要不可欠です。